

日本人英語学習者の *wh* 疑問文運用能力に関する予備調査：  
心理言語学的研究に向けて  
**A Pilot Study on *Wh*-question Production by Japanese EFL Learners:  
Toward a Psycholinguistic Investigation with Classroom Activities**

森下 美和<sup>†</sup>, 原田 康也<sup>‡</sup>  
Miwa Morishita, Yasunari Harada

<sup>†</sup>神戸学院大学, <sup>‡</sup>早稲田大学  
Kobe Gakuin University, Waseda University  
morisita@ba.kobegakuin.ac.jp, harada@waseda.jp

### Abstract

Acquisition of communicative competence has become one of the most important objectives of English language education in Japan. Asking the right questions at the right time is an integral part of effective oral interactions but Japanese EFL learners experience processing and other difficulties in doing so. In this study, we will report on the results of one of a series of data collection efforts conducted in 2013, in which Japanese university students were asked to produce English statement or *wh*-question sentences based on visually or aurally presented English sentences. The results show that students have more difficulty when they are asked to convert statement sentences into *wh*-question sentences than when they are asked to reproduce the sentences that were presented. However, their average score improved in the course of investigation, suggesting implicit learning.

**Keywords — Language Production, *Wh*-question, Implicit Learning, Japanese EFL Learners**

### 1. はじめに

効果的な言語コミュニケーションは、質問と応答の連続によって行われる。そのため、リアルタイムのコミュニケーションにおいては、疑問文を理解しこれに適切に回答する能力と、相手の発話に基づいて即座に的確な疑問文を産出する能力がともに必要不可欠である。日本語の質問形式は、統語的には叙述形式に「か」を付加することによって構成するため、統語的处理としては負荷が低いことが想定されるのに対して、英語の質問形式のひとつである疑問文では、対応する平叙文と比較して、以下のような統語的に多様な操作が求められる。

#### 1) 主語と助動詞の倒置

2) 一般動詞が時制を担う主動詞となる文では、助動詞 *do* の導入とこれにともなう動詞活用の変化

#### 3) 疑問詞の文頭への転移

また、疑問詞が主語となる場合や間接疑問文では、主語と助動詞の倒置が生じないなどのルールも知っておく必要がある。さらに、文末や文中のイントネーション（上昇調・下降調）の調整などが加わり、形態・統語・音韻論的に多くの処理が必要である。語用論的にも、質問・依頼・間接的な命令などは相互に関連しているが、日本語と共通する部分も多いとはいえ、外国語として学ぶべき事項もある。

### 2. 先行研究

Morishita (2014) では、初級レベルの日本人英語学習者は、授業内のコミュニケーション活動において、即座に正しい *wh* 疑問文を産出することがほとんどできていないことが分かった。森下・原田 (2014) では、2013 年度の前期に、CEFR A2 レベルの日本人英語学習者（大学 1~4 年生）134 名を対象に、*wh* 疑問文の運用能力について調査を行った。調査では、*John went home at six.* のような簡単な平叙文について、下線を引いた語を問う疑問文に転換するよう指示した (e.g., *John went home at six. → Who went home at six?*)。その結果、全体として日本人英語学習者は、*wh* 疑問文の統語構造についての知識そのものが乏しいため運用につながっていない可能性が示唆された。

### 3. 調査

森下・原田 (2014) をもとに、本調査では、2013年度の後期に、CEFR A2 レベルの日本人英語学習者 (大学1~4年生) 116名 (5クラス) を対象に、wh 疑問文の運用能力についてより詳しく調べた。

パワーポイント上で、3種類の平叙文 (“John went home at six,” “John saw a cat,” “John bought a book yesterday.”) を各3回、10秒ずつ提示した (全9問)。各問題は、問題画面と指示画面のセットから成り、問題画面の文の表示が消えて指示画面に切り替わるタイミングで、指示文に従ってキーボードから回答を入力・送信してもらった (制限時間30秒)。各問題につき、1問は平叙文をそのまま入力してもらい、残りの2問では平叙文の一部を問う wh 疑問文を作るよう指示した (表1)。

表1 テスト1の素材

問題 #	提示文(文字)・指示文・正答
1	提示文 John went home at six.
	指示文 そのまま入力してください
	正答 John went home at six.
2	提示文 John went home at six.
	指示文 Whenで始まる疑問文にしてください
	正答 When did John go home?
3	提示文 John went home at six.
	指示文 Whoで始まる疑問文にしてください
	正答 Who went home at six?
4	提示文 John saw a cat.
	指示文 そのまま入力してください
	正答 John saw a cat.
5	提示文 John saw a cat.
	指示文 Whoで始まる疑問文にしてください
	正答 Who saw a cat?
6	提示文 John saw a cat.
	指示文 Whatで始まる疑問文にしてください
	正答 What did John see?
7	提示文 John bought a book yesterday.
	指示文 そのまま入力してください
	正答 John bought a book yesterday.
8	提示文 John bought a book yesterday.
	指示文 Whenで始まる疑問文にしてください
	正答 When did John buy a book?
9	提示文 John bought a book yesterday.
	指示文 Whatで始まる疑問文にしてください
	正答 What did John buy yesterday?

その結果、全体として、平叙文をそのまま記憶して入力する場合の平均正答率は80%以上であったが、wh 疑問文への転換を伴う場合の平均正

答率は50%以下であった。なお、本調査では、語順ならびに動詞活用語尾などの文法知識の運用に着目するため、大文字・小文字の区別、ピリオド・?マークの抜け、冠詞・スペースの有無、スペリングミスなど、文法知識と直接関係がないと思われるエラーについては許容するという判断で平均正答率を算出した。

これらの学生のうち36名 (上級生を履修対象とする2クラス) に対し、上記 (テスト1) に加え、さらに2種類のテストを行った。テスト2と3では、すべての問題を文字ではなく音声で提示し、問題画面の音声終了して指示画面に切り替わるタイミングで、指示文に従ってキーボードから回答を入力・送信してもらった (制限時間30秒)。

テスト2では、平叙文から wh 疑問文への転換は伴わず、テスト1における正答を問題とし、聞いた文をそのまま入力するよう指示した (表2)。

表2 テスト2の素材

問題 #	提示文(音声)・指示文・正答
1	提示文 John went home at six.
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 John went home at six.
2	提示文 When did John go home?
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 When did John go home?
3	提示文 Who went home at six?
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 Who went home at six?
4	提示文 John saw a cat.
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 John saw a cat.
5	提示文 Who saw a cat?
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 Who saw a cat?
6	提示文 What did John see?
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 What did John see?
7	提示文 John bought a book yesterday.
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 John bought a book yesterday.
8	提示文 When did John buy a book?
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 When did John buy a book?
9	提示文 What did John buy yesterday?
	指示文 聞こえたままを入力してください
	正答 What did John buy yesterday?

また、テスト3では、テスト1と同じ問題を文

字ではなく音声で提示した。

その結果、問題によって多少の違いはあるものの、全体として、平叙文・wh 疑問文ともにテスト2と3において、テスト1よりも平均正答率が上昇していることが分かった。

#### 4. まとめ

本調査における3種類のテストでは、1) 文字提示による平叙文の産出およびwh 疑問文への転換、2) 音声提示による平叙文・wh 疑問文の産出、3) 音声提示による平叙文の産出およびwh 疑問文への転換を連続して行った。正答はすべて同じであり、テストが進むにつれ、平均正答率が上昇した。一般に、文字提示よりも音声提示、見聞きした文をそのまま入力するよりも平叙文からwh 疑問文への転換のほうが、難易度は高いと考えられる。したがって、平叙文の産出において認められる練習効果を差し引いたとしても、本調査の中で繰り返し問題を解くうちに、日本人英語学習者が苦手とされるwh 疑問文の構築における潜在学習が進んだ可能性が示唆された。

#### 参考文献

- [1] Morishita, M. (2014). Question forms produced by Japanese EFL learners in dialogue contexts: A pilot study for a syntactic priming experiment. *The Journal of Language and Literature*, 33, 201-218.
- [2] 森下美和・原田康也. (2014). 「日本人英語学習者の構文処理：疑問文の統語形態論的複雑性」日本英語教育学会第44回年次研究集会：『グローバル人材育成』を考える（早稲田大学）